

「みんなの居場所もう一度」

熊本市・新公寺 解体覚悟し準備進める

熊本市中央区・新公寺^{しんこうじ}は熊本駅から車で10分ほどの所にある。本堂の入口には応急危険度判定「危険」の赤紙が貼られる。柱が著しく傾いている。

清水谷篤仁住職(48)は現在、家族と一緒に知り合いのアパートに避難している。この日(5月17日)は、エアコンの室外機を取り出すため、倒れた扉を取り除く作業をしていた。「建て替えしか方法はない。門徒さんの負担を軽減するためにも使えるものは残しておくたい」と話す。

手を休め、本堂の中を案内してくれた。清水谷住職は「この一角に、冷

蔵庫と、遊びにくる子どもたち一人一人の名前を書いたコップを置いていた。学校が終わる夕方は毎日、本堂が子どもたちの居場所。そのコップも全部割れてしまいました」と落胆する(写真)。

地震後、お寺によく来ていた女子中学生が心配

して訪ねてきたという。清水谷住職は「変わり果てたお寺の姿を見てその子が泣いてしまいました。その姿を見て私も涙しました」と話す。

扉の取り壊しを手伝っていた専門学校生の佐藤大介さん(19)は「お寺とは家族ぐるみのおつきあいで、よくここで遊んでいた。崩れそうな本堂を見てショックを受けたが、手伝えることがあれば協力したい」と話す。

新公寺は、再建に向けて5月21日に熊本別院で門徒総代会を開いた。清水谷住職は「道のりは厳しいが、『みんなの居場所』をもう一度作ってきたい」と話した。

